



題字・天野貞祐

第 83 号

平成 26 年 12 月 30 日発行

発行所 〒 112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)

獨 協 同 窓 会 発行責任者 浅 野 一

主な内容

同窓生相互の多様な繋がり場を	執 行 部	(1)
平成 26 年度通常総会・懇親会開催される		(3)
財務拡充寄付 寄付者一覧		(3)
獨協祭参加報告	広報委員 沖山秀司	(4)
「コラムドイツ」Zürich Hasenberg の旅館「兎山」記		
	昭和39年卒 柳原克忠	(7)
富士見高原療養所、正木不如丘をご存知ですか		
	昭和46年卒 竹内文生	(7)
育英奨学金基金への寄付に対し、学校から感謝状		(9)
キャリア教育講演会について		(10)
獨協大学創立50周年について		(10)
クラス会だより		(11)
私の近況		(16)
会費納入のお願い		(20)
編集後記		(20)

<http://www.dokkyo-mejiro.com>

獨協同窓会

検索

同窓生相互の多様な繋がり場を

獨協同窓会 執行部

獨協中学・高等学校の卒業生は現在1万3千人ほどいます。同窓生の交流の場としては、在学当時のクラスを基盤とするクラス会があり、各クラスで様々な形で運営されていることと思われます。獨協同窓会としてもそうしたクラス単位のクラス会へは申請によりクラス会補助を1年に1回について1万円を援助し、通信連絡費や恩師のご招待に関わる経費の一部に充ててもらっているところです。そして、クラス会開催の報告として、会報に写真と共に掲載しているところです。

ところで、同窓生の交流の場としてはこのほかにも多様な集まりが開催されています。そのいくつかの活動状況をご紹介します。最近多くなってきている集まりの一つに同期会があります。言うまでもなく卒業年次が同じだった学年のクラスを横断した集まりです。若い世代ではあまり聞

きませんが、卒業後一定期間を経てあるいはメンバーの還暦などの節目に合わせて開催されています。若い世代の皆さん方は1学年4クラス程度で総勢200名程度ですか、昭和30年代から40年代に卒業した学年はベビーブームもあり、高校卒業時点で平均7クラス程度はクラスがあったかと思います。すなわち、同期会メンバーは300名から400名程度になります。そうし



「獨協」各同窓会の集い（例：大学同窓会「HOTEL」の懇親会にて）

たメンバーに連絡を取り合いながらおおくは1年近くの準備期間を要し、盛大に懇親の場を設けています。勿論連絡のとれないメンバーや物故したメンバーもいますが、初めて同期会を開催するとおおむね3割から4割程度の参加者がいます。そして、こうした懇親会の場で学生時代には話をした事のないもの同士でも社会人として共通の話題があったりして新たな交友関係が開かれることもあるようです。勿論幹事役を引き受ける方々は大変なご苦労があるかと思いますが、何十年かの時を経ての思い出話や現在の旧友の活躍ぶりを見聞きするのは楽しいひと時でありましょう。

同窓会のもう一つのタイプが在学当時のクラブ活動を基盤としたものです。学生時代にはおおかれ少なかれクラブ活動に参加していたことと思いますが、当時より先輩、後輩の関係を絆として卒業後も交流を続けているクラブがおおくあります。ワンダーフォーゲル部、サッカー部、剣道部などは毎年のように活動をしているようです。ワンダーフォーゲル部は小諸の日進寮に集まり、旧交を温めたり、近くの山に山行に言っているやに聞いています。サッカー部も定期的にメンバーが集まり、現役の学生生徒と共にプレーをしているようです。剣道部は年末に稽古をし、みなで懇親会を開催しているとも聞いています。

さて、このほかにも同窓会活動の中にはこの紙面でもしばしば活動が紹介されている同業者の集まりがあります。まず獨協ドクターズクラブを紹介しましょう。既に発足して10数年経過していますが、医師となられ活躍されている同窓生が集まり、毎年、同窓の医師の方やその他講師を招き、講演会を開催し、その後懇親会を開き、学習の場、交流の場としています。ドクターズクラブの活動は先日開催された獨協祭でもパネ

ル紹介がありましたが、なかなか良い活動の例ではないかと思います。このドクターズクラブの活動を見習い、獨協歯科医師同窓会が3年ほど前に組織されています。この詳細については「独協通信第78号」の巻頭で発足の当初の様子が紹介されていますので、ご記憶の方もおいかがと思います。また、医科系大学の中には教員の方の中にも同窓生がおられ、学生の中にも何人かの同窓生がいる大学では、同窓生の交流の場が組織されているようです。そのほか、職域を基盤とした東京都庁の職員の方々がメンバーの都庁獨協会などもあります。

そして、最後になりますが、地域毎に在住されている同窓生に声をかけて地域単位の同窓会も立ち上がっています。現在は活動しておりませんが、武蔵野獨協会がその嚆矢かと思われます。その後、杉並獨協会も組織され、毎年、懇親会が開催されています。

このようにいろいろな縁を基盤に同窓会が組織され同窓生の交流の場が広がることは同窓会の発展に大いに寄与するものと考えます。

他の学校の同窓会の様子を仄聞するに強力な同窓会組織をつくっているところもあるようです。系列の中学、高校、大学などの同窓会を糾合し、組織化され、母校の発展に協力すると共に、同窓生相互の強い絆のもとに職業的なつながりや同好の士のつながりを強め、同窓生の活躍の場を拡充するなどの活動を行っているところもあるようです。こうした例は、特に有名私立大学などで見られるもので、獨協同窓会についてもそのような広がりを期待したいものです。

次に、そのような活動の魁となる集まりが開催されましたので発起人の方からご紹介してもらうこととします。

「オール獨協」構想のもとホテリエの集い

獨協大学同窓会「ホテル部会 (HOTAL)」懇親会に、浅野会長ら出席

昭和39年卒 柳原克忠

浅野会長、木原幹事長夫妻、谷田貝広報担当幹事は、9月12日(金) 椿山荘で行われた、獨協大学同窓会「ホテル部会 (HOTAL)」(会長 柳原克忠：昭和39年卒同窓会総務担当)の主催する懇親会に出席。この会は、獨協大学卒業後、ホテルパーソンとして活躍しているOBの集いで、獨協中学高等学校出身者も含まれ、当日は40数名が集まった。席上、浅野会長や木原幹事長から又大学同窓会の岩崎会長、大曲事務局長などから、オール獨協出身者の集いとも言えるこの会の趣旨に賛同された励ましのメッセージが披露され、若いホ

テルパーソン達らの喝采を受けていた。このようなホテリエの集まりではあるが当日は獨協同窓会、獨協大学同窓会の執行部や獨協医科大学出身者などが集い、正に「オール獨協会」であるかのような、活発で、又女性の参加もあり、華やかでもあり、何かホッとするような暖かいパーティーであった。

今後、この「オール獨協」的な集まりが更に機能として発展していくための検討がされ、「獨協」の名のもとに同窓会連合のような有機的な構築がなされることも次世代への課題でなかろうか。

平成26年度通常総会・懇親会開催される

通常総会

平成26年6月21日獨協中学・高校小講堂にて開催された。

議事に先立ち、平成26年度にスポーツ、社会貢献等で活躍した生徒、クラブ（合計5組）の紹介があった。浅野会長より同窓会からの同窓会賞としてそれぞれ2万円分のギフト券が贈呈された。

続いて、本年度は本校PTAが東京都第4支部私立助成活動の支部長校にあたり、浅野会長より支援金として10万円が贈呈された。

続いて、渡辺校長の挨拶に引き続き、例年通り図書費として20万円が贈呈された。

開会にあたり浅野会長より、会長就任後2年が経過し、財務状況の改善、組織の充実化など、会務が概ね順調に行われ、現在取り組んでいる諸問題に今後も継続して対処し、さらに会員に向けては、同窓会への関心をさらに高めていただくような様々な企画を考案し、実行していきたい。また、育英資金増資のための寄付募集についての報告があり、多くの会員にご理解、ご協力を頂いたことに感謝するとともに、今後とも寄

付文化を根付かせていきたいと挨拶があった。

議事に入り、平成25年度事業報告、収支決算、続いて平成26年度事業計画案、収支予算案につきそれぞれ説明があり、いずれも異議なく承認された。

懇親会

総会后、例年通り椿山荘にて開催された。浅野会長の挨拶に引き続き、ご来賓の渡辺校長よりご挨拶があった。

イベントとしてまず新入会員（新卒業生）の紹介があり、代表者より参加へのお礼が述べられた。また、新任の先生方の紹介が行われた。次に獨協同窓会ドクターズクラブ、歯科医師獨協会より活動報告がなされた。今年も吹奏楽部の生徒による演奏が場を盛り上げた。

会員、ご来賓、先生方との交流の場である同窓会の懇親会であるが、全体の参加者は増加しているが、会員の参加者が減少している。同窓会へのご理解とご支援をいただけるような活動と、さらに関心を引いていただける企画を立ててアピールしていく所存である。

最後に参加者全員で校歌を斉唱し、閉会となった。



財務拡充寄付 寄付者一覧（平成26年6月2日以降）

竹内正和（昭和18年卒）	江澤明彦（昭和34年卒）	入野満哉（昭和51年卒）
江田豊（昭和24年卒）	鈴木莊太郎（昭和35年卒）	植田侯平（昭和53年卒）
桑嶋陽一（昭和29年卒）	針谷吉人（昭和38年卒）	小澁陽司（昭和60年卒）
飯田英雄（昭和32年卒）	宮崎輝雄（昭和42年卒）	青木信一（昭和62年卒）
河野満（昭和34年卒）	安井恵（昭和45年卒）	関井秀明（平成08年卒）
矢沢恒治（昭和34年卒）	秋元雅之（昭和48年卒）	

寄付金総額 465,000円

獨協祭参加報告

広報委員 沖山 秀司

獨協祭展示について

第6代校長 長井長義先生を特集しました。長井先生は徳島県のご出身、櫻田可人氏と取材を重ねると、徳島県鳴門市板東には第一次世界大戦時のドイツ人俘虜収容所が存在していた事、また、その大戦終了後にアインシュタイン博士が来日した際、船中にて虫垂炎の手術を施した外科医は徳島県美馬市出身である事を知り、これらの資料を集め、展示致しましたので、ここに紹介致します。

<長井長義(1845年7月24日～1929年2月10日)>



明治40年～大正9年、独逸学協会学校長。明治4年(1871年)、26歳で第1回欧州留学生として選ばれた氏は、ドイツでの医学習得のため2月、横浜港を出港、太平洋を船で渡り北米大陸を鉄路で横断し大西洋航路の旅を経て5月にベルリンに到着します。基礎を学ぶ課程で、幼少期に父(阿波藩生薬学者)から影響を受けていた薬学に目覚め、薬学博士の道を歩むことになります。1884年5月、帰国。東京帝国大学教授に就任し、国命にて大日本製薬会社の設立に尽力します。1885年、世界に先駆けてエフェドリンを発見し製剤化に成功、気管支喘息患者の治療を大きく改善させました。

1886年、再びドイツを訪れた長井は、3年に渡る



交際のあった テレーゼ・シューマッハとの挙式を済ませ、帰国。その後、妻テレーゼの影響もあり女子教育に尽力し、日本女子大学、雙葉学園を創設。雙葉会のシンボル「フタバアオイ」は生薬に精通している長井の提案とのこと。テレーゼ夫人は、日本女子大学及び雙葉学園にて教鞭を執りました。



また、富山大学薬学部、熊本大学薬学部、徳島大学薬学部の前身の創設にも尽力しました。

徳島大学には多くの資料が保管されています。

薬学、製薬企業関係者では有名な(社)日本薬学会「長井記念館」(渋谷)は長井家が寄附した土地に建てられています。NHK エンタープライズでは、「こころざし」と題し、長井長義伝を映画化しています。



<徳島とドイツ>

徳島に開設されたドイツ人俘虜収容所は、庶民におけるドイツ文化の交流をもたらしました。当時日本は英国と締結した同盟により、ドイツは敵国となり極東に存在するドイツ領に派兵した結果、多くのドイツ人俘虜を国内に収容しました。収容所長 松江大佐は、ドイツ人俘虜に敬意を払い、彼らの文化を尊重しました。Beethoven の第九は、俘虜によって本邦で初演を迎えました。徳島県 鳴門市 板東町に建つ「ドイツ館」は、今もその歴史を伝えます。



- 1914年 6月 サラエボ事件
(オーストリア - ハンガリー帝国の皇位継承者「フランツ・フェルディナント大公夫妻」が銃撃される。) 第一次世界大戦勃発。
- 1914年 8月23日 日本は日英同盟に基づき、ドイツに宣戦布告。アジアに於けるドイツ領(青島、北マリアナ諸島、パラオ・マーシャル諸島、クロネシア連邦)へ派兵。また、連合国輸送船を護送する目的で駆逐艦など18隻を地中海へ派遣。
- 1914年11月 日本国内にドイツ人俘虜の収容を開始。
- 1917年 4月 板東俘虜収容所が開所される。
- 1917年 4月17日 俘虜による第一回コンサート開催
- 1917年 7月22日 サッカー場開設
- 1918年 6月 1日 ベートーヴェン「第九」演奏会=本邦初演(通算18回目の演奏会)
- 1918年11月 第一次世界大戦終結
- 1919年12月25日 第一次帰還船が、徳島県小松島港を出港
- 1920年 2月24日 第四次(最終)帰還船が、Wilhelmshafen に入港

板東俘虜収容所長 松江 豊寿 大佐 =会津藩士 出身=



収容所内で練習に励むドイツ人

<エインシュタインの墓碑>

- アインシュタイン博士は、1922年(大正11年)10月8日 フランス マルセイユから、日本郵船の北野丸に乗船し、日本講演の旅に発ちました。
- 途中、虫垂炎(盲腸)を発症し、偶然に乗り合わせていた九州大学の教授(外科医)、三宅速(みやはやり)が船上で手術をし、1922年11月17日 無事に神戸に上陸します。
- そして、アインシュタイン博士と Dr.三宅の友情が芽生えます。
- 昭和20年 6月29日 三宅は岡山市内にて空襲に遭い、夫人と共に防空壕内で他界しました。
- 昭和22年 3月 三宅の死を知ったアインシュタインは非常な悲しみに襲われ、書簡を送りました。

現、徳島県美馬市にある 三宅 速 博士 の墓には、アインシュタインの直筆の文が刻み込まれた墓碑があります。



北野丸船上の三宅速とアインシュタイン

ここに 三宅 速 と、その妻 三保 が眠る。
二人は共に人類の幸せのために働き、そして、共に人類の あやまち の犠牲になって逝った。



Hier ruhen Dr. Hayao Miyake
und dessen Frau Miho Miyake.
Sie wirkten vereint für
das Wohl der Menschen
Und schieden vereint als Opfer
von deren Verirrungen.
Princeton N.J. USA
March 3, 1947 Albert Einstein

第二次世界大戦がはじまり、アインシュタインはナチスドイツから逃れ、アメリカに亡命しました。

そして原爆などの兵器の発展にもその技術が利用されました。

アインシュタインは、来日した際の命の恩人 三宅速も、その戦争の犠牲になったことを、生涯悔やんだことでしょう。

以上、徳島県とドイツの関わりを紹介致しました。

また、OB 会コーナーでは、ドクターズクラブ、歯科医師獨協会、サッカー部、が展示を行いました。

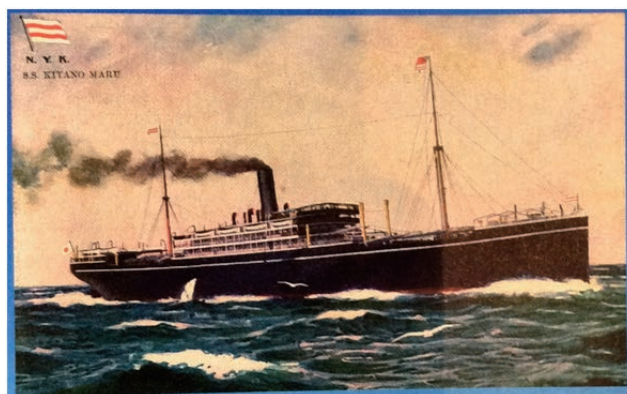
来年度以降も、OB 会紹介コーナーを開設します。皆様の参加を募集しています。



大正11年11月、小石川植物園に於ける記念撮影
後方右から二人目は、長井長義



北野丸船上の
アインシュタイン夫妻



北野丸



「コラムドイツ」

Zürich Hasenberg の旅館「兎山」記

昭和39年卒 柳原 克忠

独協通信81号掲載の同窓会会計幹事谷口有三氏（昭和53年卒）の紹介記事を受け、9月中旬、旅館「兎山」を訪ねた。

EU 鉄道網の要衝である Zürich 中央駅から車で20分、Zürich 国際空港から車で30分という便利なロケーションで周辺は見渡す限りの緑豊かな牧草地で、牛、馬がのどかに草をはむ、正にスイス。

また、遠景はマッターホルン、ユングフラウそして、モンブランなどのアルプスの名山が連なる。このすばらしい自然環境にある日本割烹高級温泉旅館「兎山」のオーナーが獨協53年卒の倉林正文氏である。上智大学を経て、金融マンとしてスイスに駐在、退職後、女将の良子さんと、日本文化を正しく外国人に伝えたいという強い意志と情熱で和食中心の日本旅館を開業。流暢なドイツ語と英語そして優れた経営感覚とマネージメントの頑張りで、今年12年目を迎え、地元メディア・新聞・テレビで特集として報道されている。4年前にヨーロッパミシュラン1つ星評価を得た後は、その和食やホスピタリティは好評で、国際会議などへの供食もしている他、ヨーロッパの政治家、文化人など著名人が多数来店している。

さて、この「兎山」旅館にはパリからTGVでチューリッヒに到着した日と、その後ツェルマットやローザンヌ、ヴィツナウを経て再びチューリッヒに戻った日の2回2晩宿泊した。1回目は和室のスウィートルーム、2回目は和室と洋室のコネクティングルームに投宿、優雅な体験であった。特に和室のスウィートルームは、前室、お茶室付床の間付の12畳大和室2部屋続きで、寝所と食事所がセパレートされ、さらに広いベランダで温泉ジャグジー付という景色を眺めながらのラグジュアリースウィートルームである。勿論、内風呂・サウナも完備。この温泉ジャグジーは各室にあるという。食事とその評判どおり、いやそれ以上の内容であっ

た。特に得意とする和懐石は、すご腕の日本人板長のもとキビキビとした切れの良い味でしかも難しい食材入手を感じさせない出来栄であり、ミシュランの星も納得できる。加えて女将指導の日本人スタッフも笑顔と優雅な振る舞いで外国人顧客に喜ばれているようだ。

又、特筆すべきは、やはり店主倉林氏のホスピタリティーマインドである。スイス国内での4ヶ所のラグジュアリーホテルの予約をしてくれて、さらには各々のホテル間の移動を、チューリッヒから送迎してくれたのである。ローザンヌのホテルボー・リバージュパレスから、スイスワイン産地ラ・ボーヤグリュエール村を経てシャメイのホテルカイエまでとか、そこから翌日、ヴィツナウのパークホテルまでと、再び「兎山」旅館へと、全行程往復約1000Km、世界500台の限定車6000ccのアウディの4駆で走破してくれたのである。本紙上で改めて御礼申し上げたい。

今回、このようにドイツ語圏で、少ない人数の日本人スタッフと共に頑張っている獨協人を紹介できたことは喜びであり、機会があれば又訪れたいと思っています。



倉林正文氏、女将良子さん（右側2人）と筆者夫妻

この「コラムドイツ」では、ドイツ語文化圏での体験紹介文を募集しています。テーマは自由です。

富士見高原療養所、正木不如丘をご存知ですか

昭和46年卒 竹内 文生

まず、筆者について簡単に自己紹介させていただきます。

私は現在東京都清瀬市にある国立看護大学校の教員をして居ります。「清瀬市」という地名をお聞きになり、あることを連想される方々は私よりも年配の方に

多いのではないかと考えます。若い人たちには、清瀬市が東京であることに驚かれるかもしれません。確かに、東京都の地図を広げると東京都が埼玉県の一部に食い込んでいる場所がありますが、ここが東京都清瀬市です。西武池袋線で池袋駅より30分ほどの東京の

郊外に位置します。

清瀬市は年配の方々には「結核の街」として知られた街です。私が、初めて清瀬市を訪ねたのも市内の結核予防会附属結核研究所でした。30年以上前のことです。街は一種独特の雰囲気を感じたのを今でも覚えています。そして14年前にこの地に国立看護大学校が開設され、教員として着任しました。比較的広いキャンパスは松の木や桜が多く、周辺にはかつての雑木林などが残っていました。そもそも大学校が現在ある敷地は以前の国立療養所東京病院清瀬病棟があった場所です。現在国立療養所東京病院は国立病院機構東京病院となりで近代的な病院として診療を続けています。そのほかにも清瀬市の西武線の南西部には多くの病院があり、その名も病院通りの両側にいくつも病院があります。病院通りの先には多磨全生園というハンセン病療養施設があります。清瀬市は今も病院の街です。元をたせば、昭和6年に東京府立清瀬病院が結核療養所として開設されたことを機に、次々と結核の療養施設が開設された結果、今のような病院の街となったわけです。そんなわけで、着任後清瀬における結核に関わる医療機関の歴史に興味を持ち少しずつ市内の図書館などで資料を借りて勉強してみました。こうした勉強を続けるうちに、当然我が国の結核医療の歴史についても調べる必要がでてきました。そんな中で朝日新聞の記者をされていた高三啓輔氏の「サナトリウム残影 結核の百年と日本人」を読みました。明治期からの我が国の結核医療の様子が簡潔にまとめられた好著ですが、いろいろと参考になる記事がおおくありました。

明治時代の病気としては、外来のコレラや江戸時代から多かった脚気などもありましたが、殖産興業、富国強兵の時代背景の中で明治の中ごろより結核が大きな社会問題となりました。大山巖の息女が結核になるなど著名人の中にも結核で倒れる方々がおおく出ました。また、紡績工場の女工の間では結核が蔓延していました。我が国では明治の中期には公的な医療機関よりは私的な医療機関が次々と開設されるといった状況にあり、結核の療養施設も民間の手で次々と開設されました。特に、気候が温暖で空気が清浄な海滨地域が結核の療養の適地とされたことから湘南海岸にサナトリウムとして療養施設が多数開設されました。これらの療養施設は、当時の有産階級が利用したといわれています。一方、昭和初期からは公立の結核療養所が清瀬などに開設され、その後、清瀬には多種多様な開設者による結核療養所が開設され、多いときには15施設もあったといわれています。清瀬の療養所は多くは低所得層の患者を受け入れていたことも記されています。東京府立清瀬病院

は現在の東京都中野区江古田にあった東京市療養所が手狭になったことで当時の東京府が現在の清瀬市に結核の療養施設を開設したものでした。清瀬市内のそれぞれの結核療養施設では著名な作家や芸術家などが療養生活を送ったといわれています。

湘南海岸のサナトリウムは当時の医科大学（東京大学医学部の前身）出身の医者を中心となり私的な療養施設として開設されたということで、旧制独逸協会中学の卒業生も何らかのかかわりがあるのではないかと推察されますが、詳細はまだ不明です。

そんな中、湘南海岸や清瀬とは別に高地の療養施設として、富士見高原療養所を知ることになります。高地の療養施設は、トーマス・マンの「魔の山」の舞台スイスのダボスにあったサナトリウムに代表されるものですが、当時の結核の治療方法は高地の清涼な空気の中での療養しかありませんでしたので、特に、ヨーロッパではスイス、南ドイツなどに多くあったようです。それを日本で実現したのが、富士見高原療養所でした。富士見高原療養所については「サナトリウム残影 結核の百年と日本人」では簡単にその名前しか紹介がありませんでした。

そこで富士見高原療養所でネット検索をしますと、「資料館 | 富士見高原医療福祉センター富士見高原病院」がヒットしました。その記事を見てみると富士見高原療養所の開設者が正木 不如丘（まさき ふじょきゅう）という人で、逸協会中学卒業ということが分かりました。また、正木不如丘のプロフィールについてもそのサイトで紹介されていました。本名が正木俊二、長野県出身で、東京帝国大学医学部を卒業し医師となった人であることが分かりました。同窓会名簿で確認すると明治38年(1905)卒、中学第14回卒とあり、その名前のそばに森於兔の名もありました。あえて書くまでもありませんが、森於兔は森鷗外（林太郎）の子息であります。正木不如丘は俳人、作家としてのペンネームで多くの一般向けの著作を残していることも分かりました。

正木は1926年（大正15年）に富士見高原療養所初代院長となっており、20年間その職についていたよ



うです。富士見高原療養所は現在 JA 長野厚生連富士見高原病院となっていますが、正木 不如丘を顕彰して資料館を設置しています。現在は解体修理のため閉館していますが、インターネット上でいくつか資料を見ることができるようになっています。

富士見高原療養所及び正木不如丘が有名になったのは、多彩な入所者の方々によるものでした。当時結核に罹患しこうした療養所に入所できる人々は経済的にも恵まれ、なおかつ文学、芸術方面で活躍されていた方が多かったことにもよります。湘南海岸の療養所にも文壇で名を成した方が多かったことと同じです。富士見高原療養所には堀辰雄、竹久夢二、横溝正史などがいました。また、当時の文芸春秋社長菊池寛も関係しておりました。このような関係で昭和のはじめから映画の舞台としてもロケーションなどに利用されていたようです。昭和初期には「月よりの使者（第1作）」が製作され往年の名女優入江たか子が主演しています。第二作目の「月よりの使者」（昭和24年製作）は、加山雄三の父君である上原謙が出演しています。その後昭和29年には第三作も作成され、さらにはテレビドラマも昭和34年から放送されたようです。「月よりの使者」の原作は久米正雄でした。堀辰雄が入所していた縁もあり、「風立ちぬ」が療養所を舞台に製作されています。第一作目は昭和29年に製作され、久我美子、山村聡、青山京子そして獨協の卒業生でもある灰田勝彦も出演していました。第二作は昭和51年に製作され、山口百恵、三浦友和が出演していました。とりわけ富士見高原療養所の名を高めたのは上原謙、田中絹代出演の「愛染かつら」ではなかったでしょうか。「愛染かつら」はご存知の方も多いと思いますが、川口松太郎の小説をもとに昭和13年に製作されたモノクロ映画でしたが、その主題歌「旅の夜風」を霧島昇、ミス・コロムビアが歌い大ヒットしたことによるものと思われます。「愛染かつら」は我が国のメロドラマの魁となる作品であったことからその主題歌も80万部という空前のヒットをしたものと思われます。医師と看護師を主人公としたメロドラマであり、満州事変

が起り、日中戦争が始まりそれに続く第二次世界大戦前の時代背景がそのような作品を多くの人々が受け入れたのではないかと考えられます。

そして、第二次世界大戦の終結は富士見高原療養所の役割にも大きな変化が訪れます。結核は戦後急速に患者数を減らしていきま。昭和26年（1951）以降、ストレプトマイシンが使えるようになり患者の減少に拍車をかけることとなります。実は戦後間もない時期から結核による死亡は減少していましたが、それに止めをさすように抗生物質をはじめとする化学療法が広く行き渡っていきます。そうした中で明治期から戦前に開設された結核療養所も戦後60年以上経た現在では地域医療の中核をなす病院として転換してきています。富士見高原療養所も正木不如丘の後を2人の娘婿が引き継ぎますが、昭和56年（1981年）には長野県厚生連の運営する病院となり現在は富士見高原医療福祉センターとして発展を続けているところです。

私が、正木不如丘、本名正木俊二が独逸協会の卒業であり大正時代から昭和のはじめにかけて結核医療に携わっていたことを知ったことは、清瀬に赴任し結核について調べていった作業の中での大きな収穫のような気がします。私がまだ知りえない多くの諸先輩が多面で活躍されていることは同窓生の一人としてうれしい限りです。同窓生の皆様におかれましてもそういった方々をご存知でしたらこの紙面に発表して頂けることを期待して居ります。

（尚、写真は富士見高原医療福祉センター HP より転載）



育英奨学金基金への寄付に対し、学校から感謝状

同窓会では獨協学園創立130周年事業の一環として昨年と今年2度に分けてそれぞれ500万円ずつ育英奨学金基金への寄付を行いました。全体で1000万円を寄付しました。育英奨学金基金への寄付は同窓会、後援会及びPTAそれぞれ1000万円ずつとのことで同窓会も応分の負担をしたところでもあります。寄付に対して平成26年11月8日（土）、渡辺和雄校長から浅野一同窓会長に感謝状を頂戴しました。同窓会では基金への寄付にあたり、同窓会の厳しい財政状況をかんがみ広く同窓生の皆様方に財務拡充寄付ということで寄付を募りましたところ、多くの同窓生の方々の賛同を得

て浄財が集まっているところであります。

ところで、育英奨学基金について。「奨学金を給付された生徒から基金へ寄付をした者への使途に関する報告があつてはいいのではないか」とのご指摘がありますが、育英奨学基金の配分に関する学内の委員会宛には生徒及び父兄からのお礼が届いているとのことで、直接には基金への寄付を行ったものへの御礼はないものということです。しかし、奨学基金がこれまでのように配分されたかの概要については学校から次ページの表のような資料が届いておりますのでこの紙面を借りてご報告します。なお、原則として給付額は

月額3万円となって居りますが、生徒の状況などにより若干の増減があるようです。

また、最近の経済事情を反映してか奨学金受給希望者が増加する傾向にあるとのことで、育英奨学基金の必要性はますます高まっているとのことで、生徒の就学継続支援の一助となっているとのこと。

奨学生数及び給付総額の年次推移

	奨学生数	給付総額（円）	累積給付総額（円）
平成16年度	6	1,740,000	1,740,000
平成17年度	7	2,160,000	3,900,000
平成18年度	6	2,160,000	6,060,000
平成19年度	4	1,440,000	7,500,000
平成20年度	6	1,830,000	9,330,000
平成21年度	7	2,160,000	11,490,000
平成22年度	8	1,944,000	13,434,000
平成23年度	6	1,980,000	15,414,000
平成24年度	8	2,160,000	17,574,000

キャリア教育講演会について

昨年度第一回目のキャリア教育講演会は田川博己 JTB 社長（当時）（昭和41年卒）にご講演戴いた。聴講した在校生の中学3年生及び高校1,2年生にはなかなかの評判であったようだ。本年度は平成27年2月7日（土）午後1時からJリーグマッチコミッショナーをされている福島 廣樹氏（昭和41年卒）にご講演をお願いしているところである。聴講者は昨年同様中学3年生及び高校1,2年生となりますが、同窓生の聴講も可能なように座席を用意しております。土曜日の午後ですので多くの同窓生が参加されるよう、お

誘い申し上げます。

福島 廣樹氏は獨協卒業後早稲田大学に進学し、サッカー部に所属され活躍された。その後本田技研工業サッカー部に在籍し、その間サッカー留学を果たした。現在は早稲田大学女子サッカー部監督、Jリーグマッチコミッショナーを務めておられる。現役時代は往年の名選手釜本邦茂と共にピッチに立ったとのことで、我が国のサッカー界の歴史を語るにふさわしい一人である。

獨協大学創立50周年について

平成26年10月22日生憎の雨の中、獨協大学創立50周年記念式典が草加市の獨協大学35周年記念館アリーナで開催されました。

式典は犬井正学長の式辞、寺野彰理事長挨拶をはじめとして、来賓の下村博文文部科学大臣、ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン駐日ドイツ連邦共和国大使、私立大学協会会長清家篤氏からのご祝辞を戴いた。犬井学長の式辞の中では大学の開学に当たっての天野先生の建学の理念「大学の使命は学問を通じての人間形成」であることが紹介され、これからもこの建学理念に添った形での大学運営がなされることを話されていた。さらに、大学のこれまでの発展の過程とこれから先の計画が紹介され、これから先の更なる50年の発展を宣言されていた。

文部科学大臣は所用のため列席されなかったが文部科学省高等教育局私学部私学行政課長 永山裕二氏より

大臣の祝辞が披露された、その中でこれからの私学のあり方への期待が述べられ、その役割を積極的に担っている獨協大学への大きな期待も披露された。

その後、記念講演がハンス・カール・フォン・ヴェアテルン駐日ドイツ大使からあり、式典は滞りなく終了した、その後ビデオ「獨協、その時。～獨協大学50年をふり返る～」が上映され、獨協大学の50年の歩みが紹介された。

式典終了後には、式典会場の隣の学生食堂で記念祝賀会が盛大に催された。

近年、獨協・中学高等学校からの進学者は少ないものの、天野先生の建学の理念は中学高校の中興の祖としての天野先生のお考えと変わるものではなく、「獨協」の名の下にそれぞれの大学、高校、中学がより連携をもち発展されることが期待される。

昭和20年5卒ドイツ語科 芽城会開催報告

緑溢れる5月18日正午より新宿小田急8階の「楼外楼飯店」で芽城会を開催した。卒業後69年、級友は皆80歳を超えた。多くの友人が身体の不調を訴えて欠席であった。今回足が不自由で歩行困難となった藤山俊彦君を娘（明子）さんが介護して車椅子で出席することが出来たので総勢15名となった。

まず神山から開会の挨拶、会計報告と、昨年逝去された級友4名の報告があり、次いで牧豊君から我々は来年になると満で又は数えで88歳の米寿を迎え、更に卒業後70周年となる節目でもあるので何か変わった趣向でクラス会を開きたいとの提案があった。次に黒沼昭夫君から同窓会の現状報告と乾杯の音頭で賑やかな会となり、途中藤山君から“Heidenröslein”、“Der Lindenbaum”等のドイツ語の歌の披露があり、懐かしく聞くことが出来た。会は盛會裡に進み午後3時過ぎ、来年の再会を約して散会となった。

出席者：米田武、畦森公望、黒沼昭夫、加藤一郎、佐藤徳重、藤山俊彦(明子)、鈴木勘也、岡田太一、木村保、平沢昭彦、馬場弘次郎、村田昭一郎、牧豊、神山一郎（以上15名）（文責：神山）



花の二七会

平成26年9月27日「花の二七会」を飯田橋「トリノ」で開催しました。若い時に会の名前に「花」をつけましたが、80歳を過ぎて来るとだいぶしおれて来ました。それでも、中にはゴルフ、旅行と結構活躍してい



る者もいます。昨年は10名足らずでしたが、今年は16名の出席者で大変にぎやかな会となりました。（幹事・朝比奈貴次）

大豆会

大豆会は、平成26年10月9日(木)、例年のごとく霞ヶ関ビル35階東海倶楽部で開催された。出席者は昨年より1名増えて13名であった。うち2名は同伴者で、大豆会としては初めて女性の参加、超高齢男性グループに多少は華やかなムードを醸し出すことが出来たと嬉しい。

恒例に従い、近況、健康状態などについて語り合い、時の過ぎるのも忘れた。特に森寺君の夫人、由枝さんから故人の思い出、クラスメイトから彼に関する逸話、一抹の悲哀を含んだ裏話等大いに盛り上がった。

クラス会の話題の推移を顧みると、40代は禿げと白髪、50代は子弟の入学、就職、60代はインポテンツ、バイアグラ、孫の可愛さ、70代ともなると糖尿病、心臓病、前立腺肥大、遺産相続などと深刻となり、そして、今や80代、癌、悪性腫瘍、脳梗塞、心筋梗塞の事ばかり。これら致命的疾患の魔手を逃れた悪運強き輩の集いとなってしまった。

会の終わりに際して、心を籠めて握手し、来年の再会を約して別れたが、その瞳のなかに、お互いにもしかするとこれが最後になるかもという、悲しみと慈しみが読み取れたような気がしたのは私だけであつたろうか。（本田光芳 記）



昭和31年卒ドイツ語科 クラス会

平成26年6月4日、有楽町コパンコパンで31年卒クラス会を開催しました。

恩師、富岡近雄先生におかれましては入院されないでご自宅にて療養に専念されているとの奥様のお話で今回もご同席は断念いたしました。

今回の参加者は8名と会を重ねる度に物故者が我々に重きをなす日々になってきました。今年のクラス会では本年1月20日逝去された内科医、近藤元彦君のご子息よりクラス会の名で供花をしたことへの礼状をいただき、それを代読、合わせてこの会の運営に力を

入れてくれた緑川貞美君（平成23年6月12日逝去）、また不妊治療の研究に身をささげた産科医、羽里幸彦君（逝去時の詳細不明）の3君の在りし日々を過ぎ去った思いを巡らし、君たちの日々の戦いは終わった、安らかに眠りについて下さいと出席者全員で黙とうを捧げました。向こうの世界に親しい友が多くなってくるとみんな自分の生き方、考え方も以前とは違ったとらえ方になってくるようです。

成功を願って夢中で駆け抜けてきた人生、またその生き方への反省も含め穏やかに自分を飾ることもなく互いに話し合える友人たちと一同に会する機会、この会が永く長く続くことを念じ今年のクラス会をしめました。（文責・幹事 山口眞護）



昭和38年卒英語科 英語クラス同期会

恒例の38英語クラス同期会が平成26年4月19日桜の花が散って、新葉が輝く上野公園内の「韻松亭」で8名出席のもと、開催された。まだ現役続行中の者、現役卒業準備中の者、既に隠居生活している者それぞれだが、会えば心はすぐに青春時代に戻れるから楽しい。盛り上がったのは、昔街頭テレビで力道山・オルテガ等のプロレスに多くの人が群がって興奮し熱狂した時代の話。そして、健康についても年々目・足腰の衰えは隠せず日頃から意識して体を使い（仕事・ゴルフ、家庭菜園等）加齢と戦っている由。「来年は70才の再開」を期して散会した。（蘇武進一・記）



昭和39年卒 卒後50周年記念同期会

平成26年6月15日（日）ホテル椿山荘で昭和39年卒の卒後50周年記念の同期会を開催し、約40名の方々が集い盛会であった。恩師の新宮先生、上林先生、本田先生、吉田先生や同窓会から竹内副会長らみなさまのご出席、熱いメッセージを戴いた。卒後50周年ということで亡くなった同期生のことや互いの健康や病気のことなど飲食を忘れての盛り上がり、一方最後まで顔や名前に納得できず浮き上がっている人も……。締めには上林先生のピアノの伴奏で、おぼろげに校歌を熱唱、散会。次回、古希の同期会は2015年6月7日（日）13時から帝国ホテル本館ラウンジ「アクア」で開催。参加費8,000円（お二人参加15,000円）。39年卒の皆さん”70才”で会いましょう。（記 柳原）



昭和34年 中学入学 神田組 清澄庭園クラス会

私たちは団塊世代で今年67歳。だんだん身体が言うことを聞いてくれなくなり、あまり無理なことができなくなっています。

いま、多くの仲間は仕事の第一線から離れています。だからみんな時間のやりくりはできるのではないかな。つまり、クラス会は週末の夕方ではなく、普通の日の午後から開いてもいいのかな。そう考え、こころみに「金曜日の午後」を設定してみました。

2014年10月17日、金曜日の午後2時から。場所は深川の清澄庭園。この庭園の池に浮かぶ「涼亭」へ集まりました。普通の日の午後から集まるのなら、ゆったりやろうじゃないかという趣旨で、池の中に浮かぶ座敷を予約しました。

でも私たちの仲間はまだまだ現役で張り切っているためか、参加者は最終的に7人に止まり、こじんまりしたクラス会になりました。

2時から4時半まで、庭園の池と緑を背景にして、明るいうちからゆったりグラスをかたむけました。出るのは定番の思い出話、仲間の消息、そして「最近身体のここが調子悪い」といった話、などなど。毎回繰

り返される話を、今回もまた飽きもせずたっぷりやりました。

そして定刻4時半、おひらきです。都営の庭園なので延長はできません。「涼亭」を出ても、まだ陽は高く、暖かい。みんなでのんびり庭園を散策しながら帰路につきました。

庭園からゆっくり歩いてもうすぐに「清澄白河」へ着いてしまいます。でもまだあまりに陽が高くまぶしいので、地下鉄の地上口でなんとなく改札へ降りることをためらっていた者が数人いました。その中のだれが言うことなく「ちょっと二次会へ行こうか・・・」という流れになりました。そしてさっさと駅のとなりにあった居酒屋へ入りました。

5時になったばかり、居酒屋は開いたばかり。この歳でちょっと飲み過ぎだなあ、でもまだ明るいからなあ・・・と思いつつ、そこでまた楽しく過ごしました。おそらく2時間くらいいたのだろーと思います。ここでもようやく解散となりました。私ที่บ้านに着いたのは8時ころ。これは早くていいぞ、と思いました。

しかし今回の日程では、参加できた人にとっては楽でしたが、参加者はいつもの半分でした。この事実が幹事に次の宿題となって残りました。(奥田 博 記)



昭和41年卒 獨協1月会49回

平成26年1月18日(土)、水道橋山田屋 太郎の店にて開催しました。

今年も残念ながら津川先生が欠席され、出席者は河崎達彦君、小杉喬志君、大関久義君、長村洋君、斉藤幸一君、堀江重之君、森田芳和君、中村昭美の8名で、ちょっと少ない人数でした。

毎年25名のメンバーに連絡を入れて居りますが他の会と重なっていて出席できないとの理由が多く回答してきます。でも35年前からこの会は1月の第3土曜日と決めております。

今回の場所は森田君の大学時代の常連店での紹介で貸切にて開けていただき感謝いたします。今回は大関君が49年ぶりに参加いただき学生時代の話に戻り出席されていない、島田君や佐藤君、江藤君、吉田君の

話題で近況の報告をして盛り上がりました。

我々の会は獨協中学の時主管だった神田先生のご指導をいただいた生徒なら誰でも参加できる会ですので連絡をしてください。

今回は来年1月17日(土)に新井薬師の藤井君の息子さんのお店でやることになりましたので、ふるって参加をお願いします。

尚、来年2月7日(土)に吾々の仲間の福島廣樹君が在校生にキャリア教育の講演を学校の講堂で行います。聴講を希望の方は同窓会室の中村まで連絡してください。(幹事：中村)



昭和41年卒 ミニクラス会

ミニクラス会を平成26年1月25日(土)有楽町中華 慶楽にて開催しました。

この会幹事は平岡君で昭和35年中学入学時1組神田直人先生と2組栗原幹夫先生のドイツ語と英語の混合クラスです。

今回出席者：石田君、上原君、大平君、奥田君、加藤君、喜多君、島田君、菅谷君、巢瀬君、中村君、正木君、横山君と幹事の平岡君の14名です。

毎年2回のミニクラス会を開催しております。

なぜなら、この2・3年で出席メンバーが2名～3名と入院したり急逝しておりますので、半年なら皆さんの無事を確認出来るので開催しているとのことです。でも幹事の平岡君は、まだまだ参加者が少なく苦慮しておりました。



今回は20年ぶりに大平君が参加してくれました。彼も参加したくてもなかなか孫さんのお守りなどで、忙しい日が続いており年2回あればどちらかに参加できるのが良かったと話しておりました。

残念ながら、栗原先生も神田先生も逝去されておりますが、“団塊の世代の生き様をまだ見せつけてやるぞ”との意気込みで両先生の教えを守って続けられるだけ続けて行こうと決意を持って、夏開催を約束して散会しました。

今回で2回目の中村が記事を書かせてもらいました。
(平岡 記)

昭和48年卒 獨協48会 還暦祝い

獨協48会は毎年10月に開催しており、1組から6組までの合同の同期会です。

今年は還暦を迎えるため私と6組の浜島君にも代表幹事になってもらい、各組から2名の幹事を出してもらうという気合の入れようでした。その甲斐もあってか55名というこれまでにない参加者でした。

本年の会場は記念すべき年でもあるので、母校の前にある椿山荘で開催することとし、また還暦ということで記念品のスポーツタオルを特注で作りました。赤地に獨協のマークを入れたものでこれも大変好評でした。また今回は獨協同窓会の木原正義氏から還暦のお祝いの言葉と母校への寄付や同窓会費の協力依頼のお話を頂き感謝しております。

来賓として吉田拓司先生と柏葉洋先生をお招きして、それぞれにお祝いのお言葉を頂戴し、その後、歓談の途中で椿君より昭和48年卒業の物故者について話がありました。分かっているだけでも17名の方々が既に他界されており、お名前を読み上げた後に参加者一同で黙祷と献杯を捧げました。

亡くなった4名の同期生のご夫人よりメッセージを頂戴したので、これをご披露させて頂きましたが、亡き夫の思い出とともに我々への還暦のお祝いの言葉まで頂き、全員胸の熱くなる思いで拝聴しました。最後に代表幹事の浜島君に締めの挨拶をしてもらい、還暦の同期会は幕を閉じました。

二次会は池袋の居酒屋に流れましたが、これも30名を超える参加者で大いに盛り上がりました。開催ま



でに多くの幹事会にお付き合い頂きました各組の幹事さんと記念品タオルの製作を破格で受けてくれました植松君に改めて御礼申し上げます。

(大久保仙太郎 記)

昭和49年卒(3組) 金有一先生『小諸クラス会』

平成26年8月30日(土)・31日(日)一泊二日の日程でS49年卒業・金有一先生クラス、小諸大好きメンバーが八年ぶりの日新寮・林間学校に集合。近況報告、昔懐かしい話に盛り上がり就寝は深夜2時。皆、すっかり生徒に戻っていました。(報告・萩野)



昭和49年卒 3年3組クラス会

さる11月8日(土)、金有一先生をお迎えして昭和49年度3年3組のクラス会が、渋谷の「パンダレストラン」で開かれました。獨協高校を卒業してちょうど40年。まさに光陰矢の如しです。物故者やかなり変貌した友もいますが、久々の再会もあって大いに盛り上がりました。還暦祝いも兼ねた来年のクラス会に向け早くもいろいろな提案もなされ、盛会のうちに終了しました。次回の報告をぜひお楽しみに！

(幹事・千葉、萩野)



昭和53年卒 西の市五三会

今年も11月22日(二の酉)に、恒例の「浅草西の市五三会」が開催されました。宴会の後は鷺神社に

くり出し、飾り熊手を購入した者をご祝儀をはずんで三本締めで盛り上がる一幕もあり、皆、家内安全・商売繁昌を祈念して散会しました。(鈴木 記)



昭和53年卒 獨協ハーフ会開催

去る9月6日(土)に恒例の獨協ハーフ会(昭和53年獨協高校卒業生有志の会)が上野 精養軒にて開催されましたのでご報告致します。当日は富岡 卓先生を囲み14名の同期が集い、楽しく飲み語らい合いました。

我らも高校卒業後40年近く経過し、齢50代半ばとなり今だに悩み多く(仕事・育児・子育て・親の介護・自身の健康問題などなど)いろいろな意味で大変な時期であるとは思いますが、人生ハーフもう一踏ん張り頑張らしましょう。

来年もまた九月上旬をメドにお声掛け予定です。

(幹事 西原 由恭)



昭和60年卒 3年5組クラス会

9月27日(土)四谷「嘉賓」にて恒例のクラス会を実施致しました。今年も田村先生にご参加頂き、総勢11名で盛り上がりました。話題は、家族のこと、仕事のこと、老眼問題と多岐に渡りましたが、やはり中心は楽しかった高校時代の昔話でした。数々の思い出の場を提供してくれた母校に感謝です。

田村先生は喜寿を迎えられ、ますますお元気な様子でした。我々は来年で卒業30年目を迎えますが、卒業当時の田村先生のご年齢と現在の我々の年齢がほぼ同

じであったことに気づき、感慨深いものがありました。

今回都合がつかずに欠席となったメンバーからは、来年はぜひ参加したいとの連絡をもらいました。来年は卒業30周年記念です！ぜひ多くのメンバーで集まり、お祝いをしましょう。クラス会参加の連絡は(井手: idehisao39@yahoo.co.jp)までお願いします。それでは来年のクラス会に元気に集まりましょう！

(幹事記)



平成26年 松本歯科大学獨協会

平成26年の獨協会の開催は、例年どおり神楽坂のかぐら坂志満金にて、平成26年6月28日(土)に於いて開催致しました。当日は小雨降る中、昨年同様の参加者に幹事一同ほっといたした次第です。

今回は真砂会長挨拶(S47年高校卒)、橋口庶務の庶務会計報告ののち、金子明寛先生(東海大医学部・口外教授)(S48年高校卒)の抗菌薬についての貴重なお話があり、白須賀先生(S49年高校卒)乾杯ののち、親睦会がはじまりました。

出席者全員、昨年より大振りになったウナギに舌鼓を打ちながら、一次会盛会のうちに副会長の岡先生(S49年高校卒)の中締め後、二次会へ移動となりました。二次会では、一次会に供されたウナギの山椒に〇〇ドラッグが混入された？と思うような大変な盛り上がりとなり、夜もしっかり深まったところで本年の松本歯科大学獨協会はお開きとなりました。

(昭和53年卒・橋口記)



● 当年92歳となりました。相変わらず音楽を楽しむ事を生甲斐としてオーケストラの中に入って、毎日を楽しんでおります。音楽は心に健康を与えます。

＜小澤 武彦（昭14卒）＞

● 難聴、白内障をもちながら、ドイツ語の勉強をしています。 ＜高橋 芳和（昭16卒）＞

● 2月に卒寿を迎えました。家内共々老人ホームに入居中です。現在歩行リハビリ中ですが、疲れが先に出て思うに任せません。 ＜倉谷 三男四郎（昭16卒）＞

● お陰様で、本年無事卒寿を迎えることが出来ました。獨協時代、毎日目白から学校まで徒歩通学し、後に会社山岳部に入会、足腰をきたえた事が一因かと思われます。 ＜桜井 保光（昭17卒）＞

● 89歳を過ぎました。妻も81歳、お互い老々介護の日々を送っています。 ＜日向 一郎（昭17卒）＞

● 今年の10月で満90歳になりますが、何とか元気で過ごしております。趣味は「将棋」で連盟より5段の免状をもらっております。 ＜山口 勝（昭17卒）＞

● 家が近いので時々母校に参ります。木造時代の校舎玄関の桜を偲んで懐かしんでいます。

＜田中 建吾（昭18卒）＞

● 脊髄小脳変性症とい難病でほとんどベッドでの生活を強いられています。来年90歳になります。

＜羽野 外志雄（昭18卒）＞

● 今年3月に米寿を迎え、よくぞここまで長生きしたなと感じております。半日だけですが週6日診療をしています。 ＜松井 元司（昭18卒）＞

● 診療所を長男に譲り、週1回土曜日の午前中のみ長男と共に内科・小児科及び皮膚科の診療中です。

＜歌橋 昭和（昭19卒）＞

● お陰様で現状では健康にて毎日を過ごさせて頂いております。同窓会の皆様の御健勝を心よりお祈り申し上げます。 ＜斎藤 謙治（昭19卒）＞

● 2月より開院した名誉院長として温泉療養指導室を設け、温泉療法の指導普及に努めています。

＜植田 理彦（昭19卒）＞

● ドイツロマン派の音楽に耳を傾け、ヘルマン・ヘッセの「荒野の狼」をドイツ語で読むなどしています。健康のためスポーツ吹き矢もやっています。

＜田村 康三（昭19卒）＞

● 88歳まで長生きするとは予想しませんでした。しかし腰も足も衰えて外出することはほとんどありません。 ＜矢嶋 光男（昭19卒）＞

● 毎年7月7日に同窓会をいたしており、今年も第39回のトロッコ会をいたします。若い人からよい刺激を受けトロッコ会を成功させたいと思います。

＜石井 進（昭20卒）＞

● さまざまな山坂を歩んできた。愚老五体不満足なれど診療と合気道指導に寧日少なし。余生に軍靴の響み無からんことを祈るのみ。 ＜畦森 公望（昭20卒）＞

● 来年傘寿を迎えます。脳の活性化の一助けにもなるかと、数学再入門など数学関連の図書で自宅学習をしています。 ＜平澤 昭彦（昭20卒）＞

● 高齢につき無職です。今の所、元気です。

＜土井 榮一（昭20卒）＞

● 現在、自宅にてガーデニング他旅行・散歩等健康に留意しております。 ＜鈴木 清太郎（昭20卒）＞

● 満86歳を迎え、23年間勤務していた病院を7月末で退職しました。これからは毎日趣味の世界に没頭するつもりです。 ＜神山 一郎（昭20卒）＞

● 数え米寿となり元気に過ごしております。週2～3回の水泳、年初はヨーロッパスキーをエンジョイしております。 ＜三善 康也（昭20卒）＞

● 未だに開業しております。患者さんの話し相手をしてながら面白く時を重ねております。

＜小坂橋 和夫（昭20卒）＞

● 年男を7回経験した身としては体力・気力の衰え、特に脚力の衰退は寂しい限りです。

＜中 東策（昭20卒）＞

● 病気のせいで、両手足にシビレが残り、残念ながら外出不可能の状態です。 ＜黒川 泰三（昭20卒）＞

● 脚力が衰え歩行が難しくなりましたが、家の中では元気しております。 ＜藤村 勲（昭20卒）＞

● 80歳半ばを迎えました。先日同クラスの堤圭さんと食事して昔の話をしました。

＜名取 元（昭21卒）＞

● 今年の7月で85歳になります。過去に心筋梗塞2回、脳梗塞2回をやりましたが、後遺症も無くなんとか元気にやっております。 ＜堀川 勝夫（昭22卒）＞

● 現在85歳になりますが、有難い事に元気で楽しい老後を送っています。同級会は年に1度秋満義孝（ジャズピアニストの草分け85歳）のコンサートに同級生7～8人集まり激励する。 ＜福嶋 昌彦（昭22卒）＞

● 退職以来、中央アルプス「八ヶ岳」の山荘でゴルフ、スローフーズライフを楽しんでいます。

＜大倉 郁雄（昭23卒）＞

● 父から受け継いだ病院を閉院しました。何でも大事に保存して何かの役に立てることを旨として育ったのが禍となり、閉院1年半を過ぎても未だ片付け終了せず、困っています。 ＜岩間 重夫（昭23卒）＞

● 自営の仕事をやめて3年余り、老妻と2人、近くに旅行に又音楽会等に出かけています。

＜江田 豊（昭24卒）＞

● 現在、81歳ですが雨天日を除き万歩計をつけての散歩に励んでおります。皆様のご健勝を祈念申し上げます。 ＜浅野 祥三（昭24卒）＞

● 80歳を過ぎましたが、いまだに現役、年数回はトレッキングに出掛けています。

＜多賀 秀世（昭24卒）＞

● 足腰が大分弱くなった以外は他に異常無く、静かに暮らしています。 ＜中條 嶺？（昭24卒）＞

● 最近体調を崩し、専ら蟄居専念しております。同窓の皆様によりしくお伝えください。

＜鈴木 三郎（昭25卒）＞

● 神戸での年金生活を楽しんでいます。足関節のリハビリに励んでいます。 ＜橘 葵（昭25卒）＞

● 今年の6月、日独皮膚科学会を口実に遊んできました。いつもこれが最後の旅行と思いながら！

＜ 本田 光芳（昭25卒）＞

●満82歳、心筋梗塞に見舞われましたが、幸い命拾いを致しました。退院は出来たものの、おっかなびっくりの日常を送っております。

＜ 中村 雅美（昭25卒）＞

●妻が昨年5月死去、一人住まいとなりましたが幸い健在です。日常生活の中心はキリスト教会で奉仕しています。

＜ 土屋 隆（昭26卒）＞

●慢性の腰痛、膝痛で20年近く、水泳教室に通っています。若い人からパワーを貰え、健康の糧と思って続けてます。

＜ 井上 猛（昭26卒）＞

●年齢も80才を過ぎると腰痛に悩まされていますが、それ以外は楽しく生活しています。3月には同期の4人と伊豆下田への旅を楽しんできました。

＜ 筒井 昭（昭27卒）＞

●今は老人ホームに入っておりますが、歩行がしつかりしないので困っています。＜ 阿部 誠（昭28卒）＞
●生老病死の最終ラン、幸運にも比較的充実した日々を過ごしており、感謝の気持ちで一杯です。

＜ 町野 宏祥（昭29卒）＞

●リハビリを兼ねてノルディックウォーキングを少しづつ短い距離ですが始めました。あせらずゆっくり体力をつけて行こうと思っています。

＜ 与那原 邦夫（昭29卒）＞

●私もこの4月で77才になりました。地元の皆で集える場所とボランティアを立ち上げ「気負わず、無理せず、自然に楽しく」をモットーに現在32名で活動中です。

＜ 森川 博（昭31卒）＞

●少々血圧は高目位で比較的健康。地域で「雑学の会」など開き楽しんでおります。＜ 村岡 守一（昭32卒）＞

●「恩師・小島晋治先生を囲む会」が開催され初めて参加した。先生の姿に感銘しました。益々のご健勝をお祈ります。

＜ 小川 秀明（昭32卒）＞

●獨協の自由で大らかな校風が大好きです。現役中は多くの獨協人と関りをもち、沢山助けて頂きました。今でも感謝しています。

＜ 後藤 昌弘（昭33卒）＞

●小生、大きくは変わねど、ウッカリミス、物忘れは驚かなくなりました！相応に元気快活を心掛けています。

＜ 根本 建治（昭33卒）＞

●現役引退から早や？年、毎日老人学をやっております。仲間とのサッカー交流や週一のゴルフに情熱を燃やしております。

＜ 高橋 龍二（昭34卒）＞

●今だに新しいテーマ（金属加工関連）について、客先に提案など行っています。最近のテーマはマグネシウム電池です。

＜ 原 鉄一（昭34卒）＞

●健康に恵まれ、地域のボランティア活動や海外旅行を楽しんでおります。

＜ 桑原 邦紀（昭34卒）＞

●TBS ラジオゆうゆうワイド(AM 8:30～PM 1:00) 4時間30分の長時間番組29年目に入り、パーソナリティーとして頑張っております。

＜ 大沢 悠里（昭34卒）＞

●月一度の全ファミリーの会食と年一度の家族旅行を楽しんでいます。

＜ 岩田 守弘（昭34卒）＞

●72才になりました。会社には一週間に一回の割合

で出ていますが、社会と結び付きを維持したいと考えています。

＜ 高橋 武聡（昭35卒）＞

●東京蒲田病院の院長を拝命して勤務しております。その他の病院でも拝命し頑張っております。

＜ 松島 正浩（昭35卒）＞

●家内と月二ゴルフを元気にしております。

＜ 奥野木 司郎（昭37卒）＞

●父の会社から、独立し現在20年経過です。息子に数年内にバトンタッチです。

＜ 蓮池 攻（昭37卒）＞

●退職して現在は元気で旅行、園芸、又友人とお酒を飲んだりして過ごしております。

＜ 宮沢 友尚（昭37卒）＞

●昨年昭37年卒全体の同窓会を兼ねて古希の祝いを致しました。楽しいひと時でした。

＜ 小林 正巳（昭37卒）＞

●昨年は37年卒の同期会に呼んで頂き楽しい一時を過ごさせて頂きました。皆様に感謝お礼申し上げます。又、この様な機会が有りましたら出席したいと思います。

＜ 小山 憲雄（昭38卒）＞

●恵愛堂病院開設し、30周年を迎えます。これからも地域医療の充実の為、がんばっていききたいと思います。

＜ 東郷 廉史（昭38卒）＞

●平成25年に埼玉県に引っ越し、新妻動物病院、主に往診。孫に囲まれて元気です。

＜ 新妻 勲夫（昭39卒）＞

●69歳になり週3日の診療をして、あとはゴルフ、旅行、グルメ、読書等趣味を満喫している。孫6人騒がしいが幸せである。

＜ 池松 武臣（昭39卒）＞

●年を重ねるごとに、いろいろな事柄が見えてきました。青春の日々を思い出しています。

＜ 鈴木 盈予（昭40卒）＞

●定年を過ぎ管理薬剤師として、同じ会社に週に2、3日出勤しています。

＜ 藪崎 高久（昭40卒）＞

●自宅整骨院玄関には、天野貞祐先生、品川弥二郎氏、新島襄、八重夫妻の写真を掲示し、少しの自慢と自身の戒めとしております。

＜ 磯谷 良仁（昭41卒）＞

●孫3人の世話で忙しい日々を過ごしています。

＜ 中島 恒雄（昭41卒）＞

●定年退職後、名誉教授を拝命し救急救命士教育を行っております。

＜ 相馬 一玄（昭41卒）＞

●2014年5月から常任監事として週3日、桜美林学園で仕事をしています。

＜ 名取 襄一（昭41卒）＞

●JTB生活も42年を過ぎ、会長職を受けることになりました。引き続き業界のために頑張ります。

＜ 田川 博己（昭41卒）＞

●昨年5月に行われたチェコ大使館主催の第19回チェコ語弁論大会でチェコ大使賞をいただきました。

＜ 松永 貞一（昭41卒）＞

●定年を迎え、42年に亘るサラリーマン生活に終止符を打ちました。残りの人生大いに楽しみたいと思っています。

＜ 山内 健司（昭42卒）＞

●65歳で年金をもらえる年となりましたが、介護施設の施設長としてまだ勤務医をしております。

＜ 引間 則夫（昭42卒）＞

私の近況

●獨協に10年（中高大）お世話になりました。人生は場数である。修羅場、土壇場、正念場。場数は宝です。2015年春、43年間勤務した会社を定年退職です（満65歳）。<阿部 善行（昭43卒）>

●素晴らしい友人達と知り合う学生生活を送らせてもらいました。今は、出来る範囲内で地域に役立つように努めています。獨協の学生だったことに感謝申し上げます。<村上 順（昭43卒）>

●団塊の世代の一員としてシニア時代を楽しんで過ごしていきたいと思っています。<尾泉 明（昭43卒）>

●産婦人科の医者として勤務医20年間、開業医として20年近く、もうそろそろ引退でしょうか？<浦野 晴美（昭43卒）>

●獨協サッカー部は2016年に戦後60周年の節目を迎え、記念行事の準備で名簿整理中。OBの方やサッカー部に関連のある方はご一報ください。<青木 正晴（昭43卒）>

●現在、2020年東京オリンピック組織委員会の理事としても働いています。<高島 直樹（昭44卒）>

●4名の共同訳者の1人として、2年間ドイツ語版の翻訳に携わりました。ドイツの物理学者が著した環境問題について書かれた本です。<中山 裕（昭44卒）>

●今年3月末で退職し、完全にフリーになりました。卒業後、友人との親交を深めて45年になりました。友人に感謝！乾杯！です。<西田 正（昭44卒）>

●獨協中学へ入学（1964年）して今年で早50年。現在62歳。嘱託として勤務。肝臓がんで5回の手術。2011、12、13年と手術が続いているので、今年はなんとか入院手術はしたくないと思っています。<青木 秀夫（昭45卒）>

●孫の世話に追われている日々です。最近日光街道を歩いています。<伊藤 潤一（昭45卒）>

●鍼灸一筋45年。終始研鑽を磨いている日々ですが、今は3人の孫にも囲まれ好々爺をしている一面もあります。<玉田 啓（昭45卒）>

●卒業後44年が経ち、一度もクラス会を開いていないので一度やりたいものだと考えるこの頃です。<千葉 実（昭45卒）>

●弁護士生活も30年を過ぎました。<戸崎 透（昭47卒）>

●現在、平日は伊豆で診療を行い、週末だけ横浜にいます。昨年は初孫が生まれ、長男も結婚しました。<石田 明彦（昭47卒）>

●61歳になっても、同級生藤田昌弘君と今田にカジキマグロ釣りに熱中しております。47年間の友情に感謝！<吉田 光諸（昭47卒）>

●昨年、昭和47年卒業独語クラス1組の還暦クラス会を目白で開催しました。個人的には初孫の相手が楽しい日々です。<真田 毅（昭47卒）>

●60歳定年の年に成りました。来年の3月まであと10ヶ月。6月は校長としての最後の修学旅行引率です。中学生が無事計画通りに行事がすすめられるように見守っていききたいです。<飯塚 睦（昭48卒）>

●今年60才、仕事に追われている生活。早く改善し

たい。

<荷見 源成（昭48卒）>

●今年で（平成26年12月）でいよいよ還暦を迎えます。健康寿命75才は達成したいと思っております。今後の15年をどう過ごすか、模索する今日この頃です。<五十嵐 整（昭48卒）>

●昨年は同級会に出席できませんでしたが、今年は「還暦」ということで盛り上がりそうですので、参加できればと思います。<松村 明（昭48卒）>

●4月より獨協医科大学病院副院長兼附属看護専門学校長になりました。ギリギリの生活ですが獨協のためと思い頑張っています。<平田 幸一（昭48卒）>

●昨年10月16日の台風26号で経営していた「ホテル椿園」が被災に会いました。皆様には、ご心配をおかけ致しました。只今、復興に向け元気に頑張っております。<清水 豊典（昭49卒）>

●相変わらず獨協中学高校で美術科講師をしています。最近になって生徒と程よい距離が保てるようになり、仕事が楽しいです。<渡邊 哲之（昭49卒）>

●私は人生のことに關しての人生行路難しと人生のための芸術で益するところがあって初めて存在意義があるということ。<立川 暢英（昭49卒）>

●伊東市宇佐美にて、40年ぶりに同級生5人と再会。多少見栄えは変わったが基本的には皆同じでした。当の本人は太りすぎ腰が痛くて困っています。<前田 栄祐（昭49卒）>

●獨協医科大学医学部桜杏会会長Ⅱ期目を仰せつかっております。<石川 仁（昭50卒）>

●先日、慈恵獨協会を開催し、29名の参加でした。獨協高校出身の慈恵医大同窓のメンバーで構成されている会です。<稲葉 敏（昭50卒）>

●元気に日々仕事と家庭とをエンジョイしています。<梅津 英幹（昭50卒）>

●形成社印刷(株)の会社名だけを残し、形成社ビルとして1階、2階をテナントとして貸し、3階事務所でビル管理をしています。<入野 満哉（昭51卒）>

●獨協同窓会常任幹事として、少しでも「恩返し」出来ればと思っています。同窓会は学年やクラブ活動、職業を超えた同窓生の良きコミュニティだと痛感する毎日です。<谷田貝 茂雄（昭51卒）>

●気がつけば年上の人は殆ど60才。これが70才、80才になって、いよいよ…思いふける今日この頃です。<吉崎 明彦（昭51卒）>

●製薬企業勤務33年、総括製造販売責任者として副作用情報と品質保証体制の両面を統括しています。<千葉 昌人（昭51卒）>

●昨年第14回獨協学園 Doctor's Club は筑波大学が当番幹事ということで講演させてもらいました。建て替えられていて全く別の学校のようなでした。<高橋 宏（昭51卒）>

●長男が5年生であと2年、長女もやっと今年大学に入学した状態で、まだまだ学費の為に仕事を頑張らないといけません。ここへきて親のありがたさを感じています。<平山 雅仁（昭52卒）>

●本年5月にとある獨協会の会合で、獨協学園を訪れ

る機会がありました。高校卒業後36年とても懐かしい一瞬でした。父母の思いを感じ得ずにはおられませんでした。

＜橋口 英生（昭53卒）＞

●平成25年12月より、蓮田西口さくら内科クリニックを開業いたしました。50才を過ぎてからの開業なので何かと大変ですが、軌道に乗るまで頑張ります。

＜鷺谷 敦（昭53卒）＞

●現在、国分寺市医師会副会長をしています。医師会の仕事が多すぎ、忙殺されています。

＜知念 信昭（昭54卒）＞

●4施設の理事長として多忙な毎日を送っています。

＜野村 芳樹（昭54卒）＞

●地元の開業して9年、自分の思う医療ができる今の職業は天職だったかなと思ったりします。

＜瀬島 克之（昭54卒）＞

●獨協高校55年卒業の方へ、同窓会は来年（平成27年）の5月に予定しています。改めて、会員の方には連絡いたします。

＜土屋 寛芳（昭55卒）＞

●現在、独立して医薬品等の開発のアドバイザーをしています。

＜北川 全（昭55卒）＞

●来年、昭和55年卒同窓会開催します。

＜栗原 晴彦（昭55卒）＞

●30数年ぶりに同級生7人ほどでゴルフに行きました。基本的に変わっていなくてちょっとホッとしました。どんどん集まることをしたいですね。

＜佐藤 博（昭56卒）＞

●50才を前に大親友2人を失い、悲しみに暮れています。

＜田 昌守（昭57卒）＞

●もはや人生の半分以上は西日本で過ごしています。

＜小池 誠（昭58卒）＞

●年に数回、浅草の大野君の店で同期会やっています。主管の富井先生はご近所にお住まいで時々立ち話しています。

＜佐藤 安則（昭58卒）＞

●昭和59年3月卒の皆様、来年は皆様50才になるとありますが、同窓会をやりましょう。

＜吉松 栄彦（昭59卒）＞

●入社25年を超え、営業畑一筋奮闘中です。

＜荒木 一郎（昭61卒）＞

●獨協通信で知った2歳年上の先輩が同じ埼玉県内で開業されていることが分かり、5年間母共々、ホームドクターとしてお願いし、心から感謝しております。通院の度に獨協の話題で盛り上がっています。

＜笛木 忠昭（昭61卒）＞

●開局し8年目、4月より24時間調剤体制となり週5当直です。柔道場にある天野先生書「気力」を想起する毎日です。

＜福澄 重泰（昭61卒）＞

●神田にある芝信用金庫神田支店の10階をお借りして、法律事務所を経営しております。まさに光陰矢の如し、目白の日々がなつかしい！

＜佐々木 広行（昭62卒）＞

●本業の銀行員をしつつ、チェロによる音楽家もしています。在学当時の丸い校舎が懐かしいです。

＜藤本 武司（昭62卒）＞

●年に1度定期的に獨協OBの先生が集まり、獨協会

をしております。今年は6月に行う予定です。

＜益子 泰雅（昭62卒）＞

●病院、クリニック勤務をしつつ、実家の神社の手助けをしております。

＜山蔭 仁嘉（平01卒）＞

●先日、歯科医師獨協会に初めて参加しました。中学、高校時代の同級生に会えたり、同地区の先輩達と楽しい時間を過ごすことが出来ました。

＜南 清隆（平01卒）＞

●歯科医院開業後8年が経ち、出張理美容は老人福祉施設を中心にして3年前よりスタートし、店舗も頑張って営業しています。

＜亀井 秀一郎（平02卒）＞

●高校時代からの草野球チームはまだ続いています。リーグに所属しておりますが、40代になり、ここ2年間勝利がありません。

＜中野 博隆（平04卒）＞

●先日結婚しました。

＜今井 謙三（平09卒）＞

●長男、祐一の初節句を無事に終える事が出来ました。家族全員、病気一つせず元気に暮らしています。

＜春宮 淳一（平07卒）＞

●現在は東邦大学大森病院に勤務しております。

＜久保田 伊哉（平07卒）＞

●係長試験の該当年になってしまいましたが、受けるかどうか考え中です。

＜藤島 一郎（平07卒）＞

●卒業から早13年。公私共に充実の毎日を送っています。獨協で培った人間力に一層磨きをかけ、活躍していきたいと思えます。

＜松本 憲昌（平13卒）＞

●現在、医学部6年生です。国家試験に向けて勉強しております。長崎での生活にも慣れ、地元の味覚を堪能しています。

＜菊田 龍（平16卒）＞

●会計士としてシンガポールに駐在しております。シンガポールへ進出される会社や移住される富裕層の方に対して、国際税務コンサルティング業務を提供しています。

＜富澤 佳祐（平17卒）＞

●東京女子医科大学病院消化器病センターに入職致しました。新米外科医として、冷や汗を大量にかいている毎日です。

＜鈴木 和臣（平18卒）＞

●医師国家試験に合格し、4月から東京医科大学病院で研修医として働いています。

＜村松 孝洋（平19卒）＞

●web系エンジニアリングをやりながら何とか生きています。当面の目標はストリートダンスと仕事の両立。そして結婚。

＜川井 純平（平20卒）＞

●卒業後、米国での生活の中で培ったチャレンジ精神を活かして努力してまいります。

＜三品 孝太（平22卒）＞

●充実した毎日を送っています。またお目に掛かるのを楽しみにしています。

＜佐藤 侑哉（平25卒）＞

●1年間おもちゃのまち（栃木県）まで通いました。2年目に入り、解剖実習も始まり流石に1人暮らしをスタート。朝が楽になりましたがとにかくハードな日々をサバイバルという感じです。全てが学びと思い頑張ります！

＜佐藤 政哉（平25卒）＞

●大学2年に進級し大学生生活を謳歌しています。サークル活動や個人旅行で日本各地を見て回る中で、都市や郊外などの空間に対して経済学的視点からの分析を

私の近況

試みる学問に興味湧いてきたところです。

＜相場 郁人（平25卒）＞

●一浪して日本大学芸術学部に通っております。今年です。

＜金子 貴富（平25卒）＞

●大学では経営学を楽しみつつ、アルバイトで貯めたお金で国内旅行によく行くようになりました。資格取得目指して勉強中です。

＜小関 健介（平25卒）＞

●大学生活は楽しく過ごしていますが、まだ高校生活の楽しさが名残り惜しく思えます。

＜早川 和希（平26卒）＞

●夢を実現させるため、志望大学合格に向けて勉強に励んでいます。

＜渡邊 映（平26卒）＞

●大学生活にも慣れてきて、学業も部活動も順調です。

＜佐藤 充（平26卒）＞

●大学に入学し、獨協での経験を活かして、常に様々な物事にチャレンジしようと、日々頑張っております。

＜井上 顕太郎（平26卒）＞

●明治大学に入学して、まだ2ヶ月ちょっとですが良い友達もできて、1年からゼミもあり非常に充実しています。

＜三上 大和（平26卒）＞

●今年の3月に卒業し、春から国立大学を目指して浪人生活を送っています。来年の3月にお世話になった方たちに良い報告ができるよう日々、精進しています。

＜北川 裕一郎（平26卒）＞

●大学という新しい環境に対して少し不安でしたが、今ではすっかり慣れて友達もできて楽しく過ごしています。もっと勉強して自分の夢が叶うように頑張ります。

＜竹本 良樹（平26卒）＞

●東京医科大学医学部に入学し、新しい生活を楽しんでいます。

＜深井 亮祐（平26卒）＞

●立教大学にて異文化コミュニケーション学を学んでいます。ドイツ語を更に向上させ、来年のドイツ留学に向けて勉強しております。

＜牧野 友紀（平26卒）＞

●東京工芸大学でバーチャルリアリティの研究、および教職課程に勤しむ。

＜永末 嘉風（平26卒）＞

●駿台予備校にて浪人中。

＜大野 陽平（平26卒）＞

●大学生活にもだんだんと慣れ、自分で責任をもって行動することの重さがだんだんと分かってきたと思います。勉強しなければと思いますが、自分の弱さのせいではなかなか上手いきません。

＜藪 智明（平26卒）＞

●駿台予備校にて頑張っています。

＜吉田 和樹（平26卒）＞

●日々、勉強や趣味の合唱に追われながらも、楽しく充実した毎日を送っております。

＜山川 誠人（平26卒）＞

●今年、東邦大学医学部医学科に入学しました。まだあまり医学を学んでいる気にはなりませんが、自分よりも優秀な仲間と切磋琢磨しています。

＜長岡 太一（平26卒）＞

●中央大学理工学部数学科に在学中。獨協中高との現在の関わりは卓球部のコーチとして毎週指導中です。

＜久保田 善之（平26卒）＞

●第一志望の大学に向けて浪人中です。頑張ります！

＜羽賀 太一（平26卒）＞

●高校4年頑張ってます。

＜富田 昌宏（平26卒）＞

●現在、浪人中です。

＜柳川 輝和（平26卒）＞

●今年の4月から大学生活が始まり、一人暮らしをすることになりました。不安なことが沢山ありますが楽しい日々を過ごしていると思います。

＜上升 康平（平26卒）＞

●4月から東京歯科大学に入学し、毎日充実した日々を送っています。

＜茂木 将（平26卒）＞

●来年の大学合格に向けて日々精進しております。

＜福田 理貴（平26卒）＞

会費納入のお願い

同窓会の運営は皆様の会費納入により支えられています。是非会費納入を!!

訂正とお詫び

独協通信 81 号クラス会だより「41 年卒 墓参クラス会報告」記事で筆者が「中村昭美」となっておりますが、「奥田博」の誤りでした。また、「34 年卒ドイツ語クラス同級会」の写真が別のクラスの写真となっていました。

さらに、独協通信 82 号「菅野博文君のデュオ・リサイタル」記事で筆者が「中村昭美」となっておりますが、「奥田博」の誤りでした。

ここに訂正し、関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。

編集後記

獨協通信 83 号をやっと発行する運びとなりました。編集子の力不足で同窓会にかかわりのある方々からの原稿が集めきれず、自ら話題提供となりました。正木不如丘という先輩に巡り合ったこ

とを皆様にお知らせしたくなりつい筆が滑りました。あしからず。皆様の平成 27 年が素晴らしい一年となることをお祈り申し上げます。